

一般審査員 劇評C (HYさん【女性、パート、40代】)

◎ 全体を通して

関係者の皆様、この度はお疲れさまでした。

今年の演劇祭は非常に楽しめました。各劇団とも一時間公演だったので、はしごして観ててもあまり疲れない長さで良かったです。今回は審査員という大役をお受けしたおかげで、五つの劇団を全部観ることが出来ました。いつもだったらあまり観ないような作品も観ることで、新しい発見がありました。

演劇祭以外の定期公演は、だいたい観に行く劇団が固定してしまっていたのですが、今度は今まで観たことが無かった劇団のも行ってみようと思いました。どうもありがとうございました。

★観た順番・Godsound→ACT→れんげ→猿ロマン→ぴかぴか

● ぴかぴか芝居塾 2009 『クローバー』

【観劇：23日・15：30の回】

今回の演劇祭のスケジュールのトリを飾る回に観させていただきました。最後に観る作品だったので自分の中で非常に期待が高かったのですが、それを裏切らない、感動的な作品でした。

“ぴかぴか芝居塾”というのがあることは知っていましたが、参加者は大人だけと思っていたので子供が出てきた時にはびっくりしました。(キャラメルボックスの小林千恵か、と思ってしまった。)子供が出てきて“学芸会化”してしまうかと思いきや、侮ることなかれ、しっかり演劇していました。

私はキャラメルボックスが好きで結構観劇しているのですが、この作品もキャラメルテイストがして、気に入りました。観ていて思い出したのですが、作演出の劇団H I Tさんといえば以前の演劇祭で観た「アニバーサリー」も良かったです。

プログラムの“代表挨拶”を読んで、「ウン、ウン」とうなづいてしまいました。『みんなと違うことに憧れる』…私もそうだったかなあ。『“フツウ”でいることを拒んで大勢の前で演劇をするという道を選んだいわば勇者たち』によって繰り上げられる物語はどんなだろう、とドキドキしながら観ていました。

環境に順応できたものだけが生き残り、それが出来なかったものは絶えてしまった。理屈ではわかるけれども、ミツバとツメクサを何とかして守ってやりたいという先生の気持が良く伝わってきて、涙が出そうになりました。場合によってはエゴとも取られかねないけれど、先生はただいつまでも一緒にいたかったんだろうと思いました。

「フツウ」とか「フツウでない」とか、それは誰が決めるものなのでしょうね。たぶん、自分自身にとってはすべてが普通のことだと思います。私も他人に対して「変じゃないか？」とってしまうことがあるけど、自分が言われたらやっぱり嫌で傷付いてしまうから、それがよっぽどの常識外れな事でない限りは偏見は持たないようにしようと思いました。

車イスの少女の世話をする少年は、損得抜きでそうすることが当たり前になっていたのでしょうか。そこへ別の目線で観る人が現れた時、車イスの少女は悲しかったらと思う。車イスの少女は、決して少年がしてくれることに甘えていたわけではないだろうから。車イスの少女が強がる姿は切なかったです。でも「できることなら自分の足で立って歩きたい」というのも本音。最後に窓際まで歩いてゆく姿は印象的でした。

「外の世界を見てみたい」というミツバの為に窓を開けるシーンで物語は終わりましたが、きっと悪い結果になっていないと思います。

自分の思いは遂げられたのだからハッピーエンドだったはず、と思いたいです。

● Godsound+Studioend 『生きてゐる小平次』

【観劇：21日・14：00の回】

今回の差演劇祭のスケジュールの中で最初に観させていただきました。こちらの劇団が人形を使うものだというのは、観終わってからチラシを見て知りました。

はじめに人形を持った役者さんが現れた時は、人形を見たらいいのか、役者さんを見たらいいのか、と迷いました。特に個性の強い役者さんであるほど困ってしまいました。初めの方では「人形劇に徹した方がいいのでは？」と思っていました。（役者さんは黒子となり、足元も見えないように台を用いる。）

話が進んでいくうちにこのスタイルにもだんだん慣れてきて、「これはスゴイかも」と思えてきました。『プリンプリン物語』世代の私にとっては、この人形はとても良かったです。主人もNHKの人形劇が好きだったので今回一緒に観られなくてとても残念でした。最近、「新・三銃士」の放送も始まったことだし、タイムリーに感じました。

普通の演劇だったら役者さん自身が前身で表現できますが、こちらは人形を持っている分右手でしか表現できないので、大変だろうなあと思いました。それから、人形の声をやっていた役者さん、本当にいい声をしていますね。とても良かったです。

初めの方で違和感があったのは、人形の持ち手と声を出す役者さんが別の人だったからかもしれません。同じ人がやった方が観やすかったような気がします。このようなスタイルの演劇を観たのは初めてでしたが、結構気に入って、また見て観たいと思いました。

「生きてゐる小平次」という作品は、かつて映画化されたことがあったそうですね。私はこの作品自体を知らなかったのも、もし本が出ているなら読んでみたいと思いました。きっと主人も好きそうな作品でした。

● 劇団ACT 『人間失格』

【観劇：21日・21：00の回】

ACTさんの公演を観るのは、きっと今回が初めてだったのではないのでしょうか。今回参加の5団体のうち、最も劇団っぽくて、役者さん一人一人が最も役者さんぽい、と感じました。

すみません、私、まだ「人間失格」を読んだことが無いのです。自分の勉強不足を痛感したところです。そして、私の「新撰組」に関する知識というのは、大河ドラマとキャラメルボックスの「風を継ぐ者」から得たものです。そんなもんなんです。

でも、「新撰組」の方だけでも少しはなじみがあったから、自分の知っている部分を思い浮かべながら観ることが出来ました。沖田は藤原竜也と畑中智行と今回演じた、太田さんとを足して3で割った感じで勝手に観ていたし、山南や芹沢は、やはり堺雅人や佐藤浩市を思い浮かべたし、自分なりに楽しめました。

私は、キャラメルボックスの時代劇が結構好きなんですけど、松本の劇団で殺陣を取り入れたのを観たのは初めてだったので「スゴイ！」と思いました。それなりに訓練もするのでしょうかから、大変だったことでしょう。

俗に“アングラ”言われるものがどういう作品か、私には良くわからないけれど、どちらかというと苦手な

分類です。そんな私でも今回の作品は楽しめたので、良かったと思います。また次の作品も観てみたくなりました。

最後に一つだけ。舞台メイクというのは特殊なものだとは思いますが、男性のメイクがちょっと…。もう少し研究して頂けるとうれしいような…。余計な事だとは思いますが、あえていわせて頂きました。

● れんげでごはん『珈琲とか紅茶とか』

【観劇：22日・15：30の回】

れんげさんの作品はいつも安心して観ることが出来ます。それだけ良く練られているということですね。しかも、オリジナルの作品で。もう「スゴイ！」としか言いようがありません。

今回も冒頭から思いつき引きつけてくれましたね。観ている側がずっとその世界に入って行ける…。何なんだろうな、その安定感は…。劇団員の皆さんが全員、演劇に熱意を持っていて、研究熱心であることがうかがえます。

今回の会場はどのようにして決まったのですか？演劇祭ということで、あらかじめ決められた会場の中から割り振られて偶然あの会場になったのか、または、各劇団がそれぞれに探して見つけたのか。いずれにしても、いい舞台になりましたね。帰るときに漫画本を見つけましたが、細部までこだわりを持って創っていることが分かりました。

今回の作品は登場人物が等身大で描かれていたので、観ている側も演じている皆さんも共感できる部分がたくさんあったのではないのでしょうか？でも決して小難しい話をしていくわけではなく、ちゃんと笑わせどころもあるところがいいです。テンポが速くて、飽きがこない。

編集者と主人公の漫画家がかっつくのかとドキドキしながら観ていたら、告白した相手はなんと主人公のアシスタント！！これには思わず「オイッ、そっちかよ！」とツッコミを入れてしまいました。あと、即席漫才のシーン「蚊→キンチョーに弱い」ってやつが好きです。「ウマイっ！」と膝を打って笑ってました。

味のある個性的な役者さんが、作品の登場人物とうまくあって、面白さが増していると思います。楽しませていただきました。

● 劇団ザ？猿ロマン『スリーウィッシーズ』

【観劇：22日・19：00の回】

観た順に感想を書いていこうと思っていたのですが、う～ん、正直言って一番書けなくて困っています…。

猿ロマンさん独特の不思議な世界が繰り広げられましたね。あの“間”を「良し」ととるか「？」ととるか。演劇祭が終わってからHPなどを観させていただきましたが、やはり感想が分かれるようですね。私は、ということ…ごめんなさい、「？」でした。終わってから主人が書いている感想を読んで、「自分で考えながら観ないといけないんだ…」と反省しました。

演劇祭のチラシに書かれていたあらすじの場面はいつになったら出てくるのだろう？と思っていたら、台詞だけで過ぎてしまって「あれれ？」と思いました。そういえば、「オズの魔法使い」ってどんな話だったっけ？この作品を理解するには、どうやら私はそこから始めないといけないようです。

私はどちらかというと分かりやすい作品が好きです。ハッピーエンドなのか、悲しい結末なのか、はたまた、物語を通して何かを考えさせようとしているのか（その場合は、その「何か」がわりとはっきりしているもの）

何にも考えずにただ笑って観ていただけるものなのか。あれもこれも、と詰め込み過ぎると收拾がつかなくなると思うので、削ぎ落としてスッキリさせる必要があると思います。偉そうなことを言ってすみません。でも、オリジナルの作品に挑むということは、とてもエネルギーの大変なことだと思います。

今回の女性陣はとてもかわいかったです。ちんさんみたいな看護師さん、何だかどこかにいそうな感じでした。NAOさん、いつもとちょっと違った雰囲気でもかわいい感じでした。

次回の作品に期待したいと思います。役者さんの力があると思うので頑張って下さい。